

国立大学に動物実験施設が設置された頃の思い出

元九州大学教授 半田 純雄

国動協設立30周年を記念して資料集の発行がなされるとのことで、文部省令で国立大学の医学部に動物実験施設が設置された時の思い出について述べさせて頂く。資料が手元になく、また昔のことであるので、年など正確ではないそしりを免れないことをお許し願いたい。

1967年(Ｓ42年)文部省学術奨励審議会学術資料分科会田嶋委員長が「大学における動物実験の改善に関する報告書」を提出し、大学に動物実験施設の設置の必要性を答申された。

これを受けてかどうかは不明であるが、東大医学部では細菌学教室岩田和夫教授が1968年頃から情報図書館課に動物実験施設の設置の陳情を熱心に行って居られた。筆者も文部省でお会いしたし、先生の教室にも度々お伺いしたことが記憶に残っている。

同じ頃、九大医学部では動物実験施設設置の概算要求書を持参して、医学部長の武谷健二教授(細菌学教室)純系動物飼育場長の田中健藏教授(病理学教室)に連れられて情報図書館課に陳情に赴いた。純系動物飼育場(大学によって例えば純系センター等名称が異なる)について若干解説しておく、1955年頃に大学でよりよい動物を生産供給するようにと東大医科研、東北大、名大、京大、阪大、九大、群馬大の7大学に建物と予

算がつけられたものである。現在の近交系は当時は純系と呼ばれていたものである。このころには実中研ではS P Fのマウスが生産されており、この7大学の会合でもS P F動物が収容される動物実験施設の必要性が論じられていた。このようなことから、本学では純系動物飼育場が中心となって動物実験施設の設置の運動を行っていた。出張旅費が自費であったので、旅費を節約するために、田中教授とムーンライトと呼ばれる夜12時過ぎに出発する飛行機で度々上京した。その後筆者は1~2ヶ月毎に文部省に赴いた。

文部省の担当課である情報図書館課は古市正俊課長、石川秀夫係長、佐藤行則係員(後に学術情報課学術資料係長)で、非常に熱心に推進して頂いた。「先生いいところに来て頂いた」とソファーに座らして頂いて、いろいろと実験動物や動物実験の専門的な質問をされた。よく勉強をしておられて感心したものである。

このようなご努力により、1970年度末に省令によって動物実験施設が全国の国立大学に設置されるようになったものである。

1971年に初めて東大医学部附属動物実験施設が設置され、1973年に建物が竣工した。

その後京大、北大等が続々と設置され今日に至ったものである。

改めて動物施設設置にご尽力頂いた当時の課長古市正俊、係長石川秀夫、係員佐藤行則各氏に心から感謝の意を表したい。